



令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果

【全国学力・学習状況調査 概要】

- ・実施日 令和7年4月14日（月）、17日（木）
- ・対象 中学3年生
- ・学力調査科目 国語・数学・理科
- ・生徒質問紙調査

【国語】

	平均正答率
全国	54.3
埼玉県	55.0
本校	57.0

・平均正答率は、総合的には全国や県の平均を上回っています。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、評価の観点における「知識・技能」に関しては、課題が見られるため今後は重点的な補充の取組が必要です。現在身についている領域や評価観点別の得意分野を伸ばしながらも学力のさらなる向上が求められます。

	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式		
	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能			主体的に学習に取り組む態度		
	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(2)情報を探し方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	48.1	—	—	53.2	52.8	62.3	48.1	55.3	—	63.9	73.6	25.3
埼玉県	48.5	—	—	54.3	53.7	63.6	48.5	56.4	—	64.8	74.0	26.6
本校	47.5	—	—	55.9	54.9	67.8	47.5	58.5	—	65.3	76.2	30.3

【数学】

	平均正答率
全国	48.3
埼玉県	50.0
本校	58.0

・平均正答率は全国、県の結果より上回っており、「学習指導要領の領域」「評価の観点」においても著しく県や全国の平均を上回っています。教科の特性として積み上げが影響を与える教科のため、今までの学習形態や指導方法をまとめ、校内で共有できれば、生徒のさらなる学力の向上の可能性が高くなります。

	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式別平均正答率		
	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	43.5	46.5	48.2	58.6	54.4	39.1	—	54.0	52.0	39.6
埼玉県	45.0	48.7	48.8	60.2	55.7	41.0	—	56.0	53.2	41.3
本校	53.1	56.8	55.1	71.1	63.8	49.6	—	64.2	60.8	50.6

【理科】

	平均正答率
全国	51.5
埼玉県	51.4
本校	52.8

・平均正答率は、全国や県の平均を上回っています。しかし、学習指導要領の領域である「地球を柱とする領域」に関しては、課題が見られます。今後は重点的な補充の取組が必要で、その他の領域に関しても全体的に既習事項を絡めた学習に取り組み、不得意な領域の克服し学力全体のさらなる向上が求められます。

	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式別平均正答率		
	エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	56.1	61.7	44.8	37.3	66.8	39.1	—	56.9	44.9	39.3
埼玉県	56.9	61.7	43.7	36.7	66.8	39.0	—	56.7	45.9	39.0
本校	57.7	64.9	45.8	35.8	68.0	40.3	—	57.2	52.0	42.1

【質問紙調査 考察】

学習に関する主体性や自己有用感、学習習慣も、全国や県の平均より上回っています。向社会性（社会の中でどのように他者と関わり、貢献しようとするかという姿勢）は全国や県の平均とほぼ同じです。「生活習慣」だけが低い結果となっており、その要因として生徒の自己評価が厳しく、教職員の視点からでは「生活習慣」は十分に身についていると捉えています。今後は、生徒の主体性を大切に維持し、生徒の「自尊感情」を高め「生活習慣」の各自の課題を改善するように指導していく必要があります。

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査 結果

【埼玉県学力・学習状況調査 概要】

- ・実施日 令和7年4月23日（水）、25日（木）、26日（金）
- ・対象 中学1、2、3年生
- ・学力調査科目 国語・数学・英語（1年生は、英語を実施していません）
- ・生徒質問紙調査

◆1年生【国語】

	平均正答率	学力レベル
埼玉県	62.5	8-C
ふじみ野市	61.5	7-A
本校	62.9	8-C

・平均正答率は、県や市の平均より上回っています。学力レベルは、市の平均より1段階上位ですが、県の平均と学力レベルが同等です。基礎的な学力は身に付いているので、今後は、県や市と同等以上の伸びを目指し発展的な問題演習も単元ごとに取り入れていきます。

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
埼玉県	65.3	67.4	59.3	56.8	65.8	57.7	—	63.6	59.0	67.1
ふじみ野市	64.9	65.8	58.0	55.3	65.1	56.2	—	62.8	57.3	69.0
本校	65.3	67.1	61.2	57.4	65.7	58.7	—	63.3	60.4	72.8

◆1年生【数学】(算数)

	平均正答率	学力レベル
埼玉県	52.0	6-A
ふじみ野市	52.6	6-A
本校	54.5	6-A

・平均正答率は県やふじみ野市の平均より上回っていますが、学力レベルは同じです。小学校での基礎的な内容は定着している所以、今後は、発展的な問題演習も取り入れ、学力向上に向けて授業改善や、教材の工夫等に取り組み、県や市と同等以上の伸びを目指します。

	教科の領域等別(小学校)平均正答率				評価の観点別(小学校)平均正答率			問題形式別平均正答率		
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
埼玉県	58.2	52.0	49.4	43.9	52.5	49.6	—	56.7	47.4	42.2
ふじみ野市	58.4	52.0	51.4	44.3	53.4	48.6	—	56.9	48.3	44.6
本校	60.9	53.1	53.0	46.6	55.3	49.9	—	58.7	50.0	49.2

◆2年生【国語】

	R7 平均正答率	学力レベルの変化	
		R6	R7
埼玉県	54.6	7-A	8-C
ふじみ野市	56.3	7-A	8-B
本校	60.0	8-C	8-B

・平均正答率は、県や市の平均より上回っていますが、学力レベルは市と同じです。これは、中学1年から中学2年の1年間での伸びが顕著でなかった結果です。今後は、さらなる学力の伸びを目指し国語科の全ての領域や観点をバランスよく指導に取り組んでいきます。

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
埼玉県	60.4	43.8	65.0	48.5	54.6	54.5	—	56.0	48.8	77.4
ふじみ野市	63.1	44.2	66.7	50.0	56.5	56.1	—	57.6	51.1	77.0
本校	66.1	47.6	73.1	53.3	59.6	60.5	—	61.0	55.2	80.8

◆2年生【数学】

	R7 平均 正答率	学力レベルの変化		
		R6	R7	
埼玉県	51.5	6-B	7-A	
ふじみ野市	55.7	6-A	8-C	
本校	59.3	7-C	8-C	

・平均正答率は、県や市の平均より上回っていますが、学力レベルは市と同じです。これは、中学1年から中学2年の1年間で学力の伸び少なかったが結果です。今後は、全ての単元において教材の検討や授業改善に取り組み、総合的に学力を伸ばしていくように取り組んでいきます。

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			図表形式別平均正答率		
	数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
埼玉県	56.3	42.2	54.0	52.1	54.6	47.4	—	56.7	47.2	18.3
ふじみ野市	59.6	48.7	57.3	56.1	58.5	52.0	—	61.4	50.7	23.9
本校	63.3	53.4	60.9	58.1	62.1	55.4	—	64.0	55.4	28.5

◆2年生【英語】

	平均正答率	学力レベル
埼玉県	60.2	9-C
ふじみ野市	65.4	9-B
本校	70.1	10-C

・平均正答率は、県や市の平均より大きく上回っており、学習レベルも県より3段階高く、市の平均からも2段階高い結果でした。更なる学力の向上のため知識・技能の定着だけでなく、コミュニケーション活動も含めた発展的な学習内容にも力を入れていきます。

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			図表形式別平均正答率		
	聞くこと	読むこと	話すこと(発表、やり取り)	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
埼玉県	73.6	59.4	18.5	55.7	66.5	49.0	—	63.2	31.8	47.9
ふじみ野市	76.6	64.4	24.3	63.7	71.4	54.7	—	68.6	36.3	48.7
本校	80.9	68.2	30.0	70.1	76.2	59.4	—	73.3	40.8	57.2

◆3年生【国語】

	R7 平均正 答率	学力レベルの変化		
		R5	R6	R7
埼玉県	57.0	8-C	8-C	8-A
ふじみ野市	56.8	8-C	8-C	8-A
本校	59.8	8-C	8-B	9-C

・平均正答率は、県と市の平均より上回っており、学力レベルも県と市より1段階も高くなっています。中学1年生は同じ学力レベルでしたが、本校は順調に学力レベルが伸びてきたことがわかります。今後も全体的なレベルアップを続けていくことが大切になります。

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			図表形式別平均正答率		
	言葉の特徴や 使い方	情報の扱い 方、我が国の 言語文化	話すこと・聞く こと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
埼玉県	55.4	63.6	53.0	54.7	58.8	54.1	—	59.4	54.6	28.3
ふじみ野市	57.1	62.0	52.2	53.7	59.2	53.2	—	59.0	55.0	28.3
本校	59.8	66.7	54.2	55.6	62.7	55.1	—	61.5	58.6	34.8

◆3年生【数学】

	R7 平均 正答率	学力レベルの変化		
		R5	R6	R7
埼玉県	56.7	7-C	7-A	8-B
ふじみ野市	58.6	7-B	8-C	8-B
本校	60.9	7-A	8-B	8-A

・平均正答率は県や市の平均を上回っており、学力レベルでも着実な伸びが見られます。2年生から3年生において1段階しか学力レベル伸びが見られませんでした。引き続き既習事項の復習も織り交ぜ、2年生の学習内容を着実に定着できるように対応していきます。

	教科の領域等別平均正答率				評価の観点別平均正答率			図表形式別平均正答率		
	数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
埼玉県	60.0	49.7	52.8	64.9	66.1	42.2	—	61.3	50.2	30.1
ふじみ野市	61.6	53.3	55.0	65.1	68.3	43.7	—	63.2	52.3	32.9
本校	64.7	55.1	55.7	68.7	70.4	46.3	—	65.4	54.2	42.2

◆3年生【英語】

	R7 平均 正答率	学力レベル	
		R6	R7
埼玉県	51.5	9-C	10-C
ふじみ野市	54.9	9-B	10-B
本校	57.9	9-A	10-A

・平均正答率は県と市の平均を上回り、学力レベルも県平均より2段階、市の平均より1段階上回っています。伸び率も県や市と同様に3段階伸びています。今後もコミュニケーション活動を軸に授業を進め、基礎的な学習内容の定着を継続して指導していきます。

	教科の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式別平均正答率		
	聞くこと	読むこと	話すこと(発表、やり取り)	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
埼玉県	55.8	57.2	12.5	37.0	60.4	33.7	—	55.3	19.2	5.9
ふじみ野市	58.8	60.7	13.8	41.7	64.6	35.6	—	59.0	18.5	6.2
本校	59.7	64.4	15.6	46.3	68.1	37.4	—	62.1	18.5	8.8

●本校の特徴的な結果の考察(生徒質問紙調査より)

(1) 生活習慣について

「規則正しい生活を送ることができましたか」という質問に対して、1年生は肯定的な回答が県平均を下回り、市の平均とほぼ同じです。2年生は、肯定的回答が県と市の平均を下回っていますが、3年生は県と市の平均を上回っています。今後、1, 2年生は生活習慣に関して指導を継続するとともに、学年集団の特性が発達段階における違いであるかを見極めて適切に対応していきます。

(2) 学習習慣について

「1週間どのくらいの時間、勉強していますか」という質問について、学習時間については全ての学年で県や市の平均を大きく上回っています。1年生から学習の習慣が身につけている理由として、小学校時代の習慣が中学生になっても継続されている可能性が高いと思われます。小中連携連絡協議会等で小学校の学習習慣を確認し、引き続き学習習慣を維持させていきます。

(3) 読書等について

「1ヵ月に、何冊ぐらいの本を読みますか」という質問では、全ての学年で県や市の平均を大きく上回っており、読書量が多いことが分かります。福岡中学校の生徒は、全体的に読書好きである生徒の比率が高い傾向が見られます。今後は、国語科だけでなく図書委員会や上福岡図書館との共同事業を検討し実施していくことで、さらに読書量を増やす方策を検討します。

(4) 自己肯定感について

「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して、1年生は県や市の平均値を超えていますが、2, 3年生は共に県や市の平均を下回っています。自己肯定感が低い要因として、他者から認められる機会が少ない可能性が考えられます。当たり前のことでも、できていることは、口に出して褒めて認めてあげることが学校だけでなく、家庭でもご協力もいただきたいです。

(5) 向社会性について

「進んで清掃や美化活動に取り組み、学校をきれいにすることができますか」という質問に、1, 2年生は県や市の平均を上回っていますが、3年生は県や市の平均を下回っています。日頃の清掃活動を見る限り、3年生は一生懸命に清掃活動に取り組んでいる現状があります。この要因として考えられることは、3年生が厳しい自己評価であったと推測できます。

(6) 主体的な学習の習慣について

「授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思ったこと」という質問に対して、全ての学年で県や市の平均を大きく上回っています。どの学年の生徒も学習意欲が高いことが考えられます。この学習意欲が、福岡中学校の高い学力を支えていると考えられ、引き続き生徒の興味関心を引き出す授業に取り組んでまいります。